

## オンボC遺跡

**所在地** 豊田市下山田代町オンボ地内

(北緯 35 度 1 分 7 秒、  
東経 137 度 18 分 41 秒)

**調査理由** 豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成  
事業

**調査期間** 平成 26 年 8 月～平成 26 年 10 月

**調査面積** 800 m<sup>2</sup>

**担当者** 鵜飼雅弘・橋本昇

**調査の経過** 豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業に伴う事前調査として、愛知県企業庁より委託を受けて実施した。



調査地点 (国土地理院 1/2.5 万「東大沼」)

**立地と環境** 本遺跡は保久川の支流、上沢尻川に北北西から流れ込む沢の左岸に立地する。調査前の状況は、杉・檜を植林した山林である。標高は海拔 441～445m、調査面積は 800 m<sup>2</sup> である。本遺跡の約 160m 北北東にオンボ A 遺跡、約 130m 北西にオンボ B 遺跡が所在する。

**調査の概要** 調査区は、南東から北西方向に緩やかに傾斜する谷状の地形に立地する。表面観察で挿鉢状に窪む土坑を確認し、トレンチを設置して遺構の有無を確認した。その結果、炭焼窯に伴う土坑を 5 基検出した。いずれも埋土に多量の炭化物を含み、壁面から底部にかけて被熱を受けた痕跡がみられる。

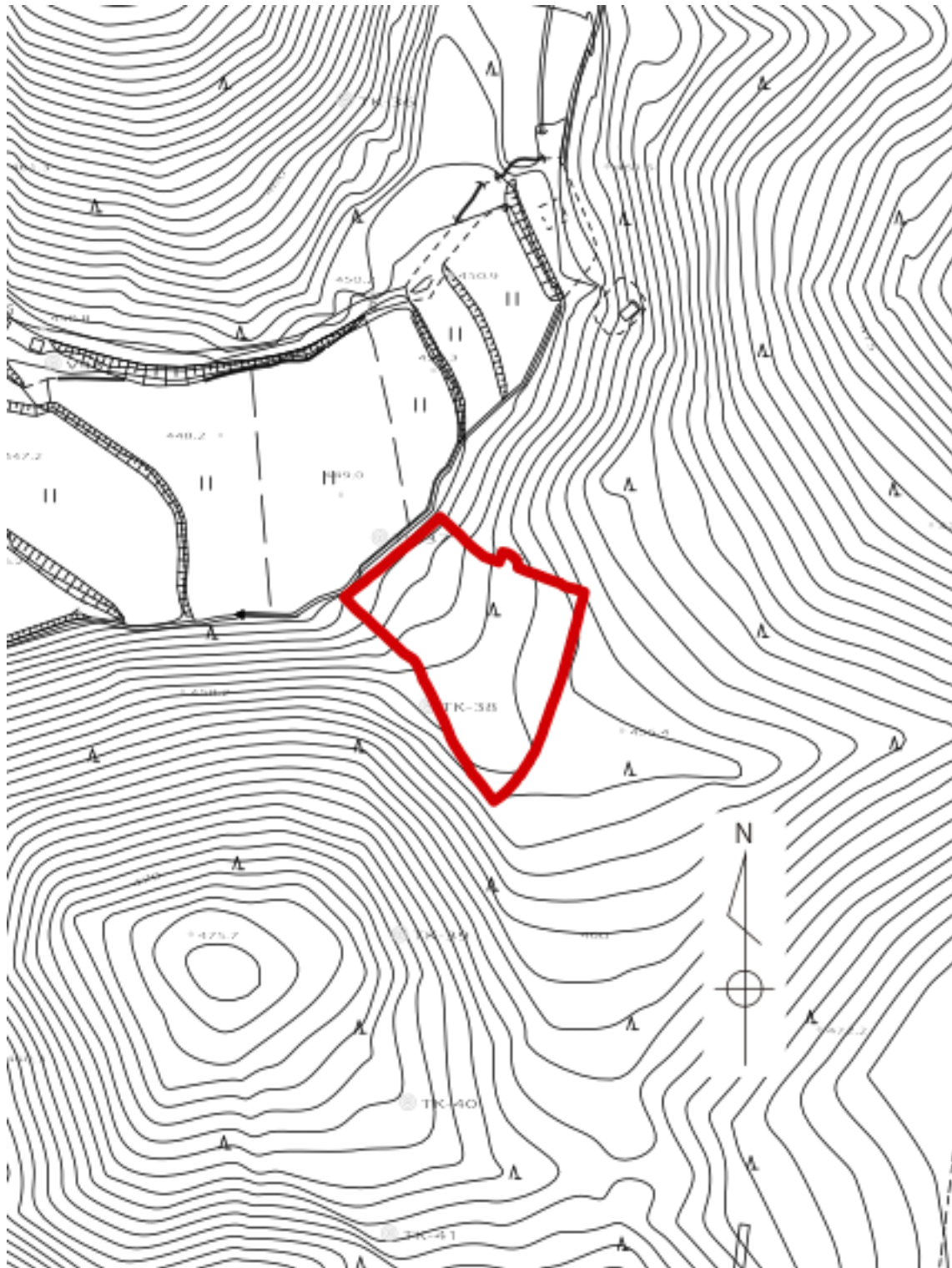
その後、GL から約 1m の深さまで掘り下げ、遺構検出を行った。その結果、溝及び土坑、ピットを多数検出した。遺構は調査区北から西の丘陵裾に多く分布し、東から南東部にかけての緩斜面上方ではまばらになる。なお、掘削の途上で石列 0007SW を検出した。また、堆積状況を観察するため設置したベルトの断面では、複数の平行する溝が確認されたが、その形状から畑の畝であると考えられる。遺物は、山茶碗が数点出土したが、溝の構築時期は不明である。

遺跡の性格を考える上で手がかりとなるのが溝である。南南西方向に伸びる 0155SD は、北端で 0099SD に接続する。埋土を検討した結果、0099SD は 0155SD より新しい遺構であることが判明した。埋土から山茶碗が出土したため、0155SD は中世以降の構築と考えられる。また包含層の掘削過程で検出された 0072SD は、0155SD と同一の遺構であると考えられる。調査区西端 0107SD・0108SD は斜面を取り巻くように検出された。

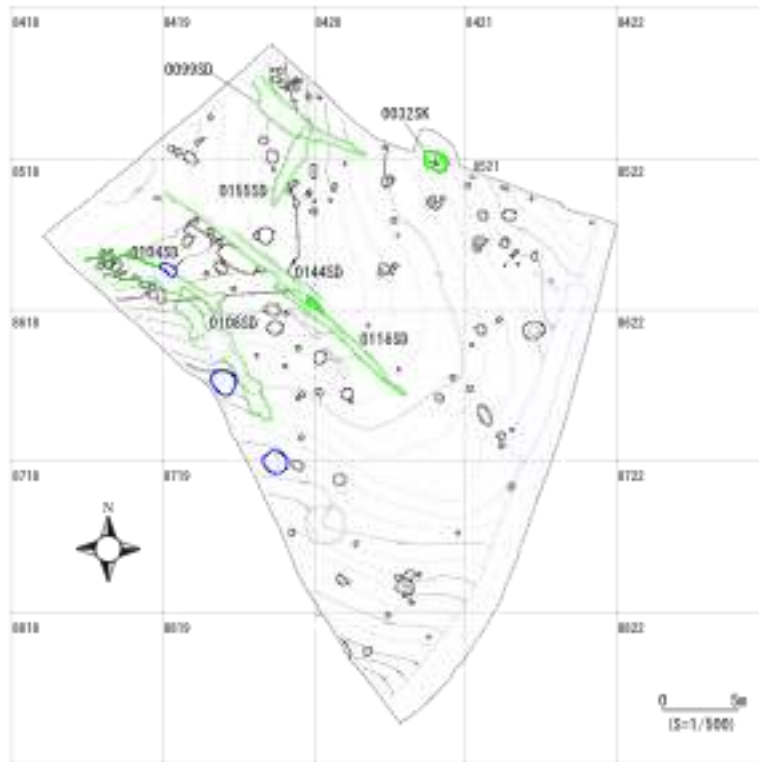
調査区の北端では、複数の杭穴を有する土坑 0032SK が検出された。陥穴とみられるが、遺物の出土はなく、構築された時期は不明である。

**まとめ** 調査の結果、土坑・ピット・溝など数多くの遺構を検出した。しかし出土遺物が少なく、遺構の大半が時期不明となっている。わずかに時期の確定できる 0155SD が中世の遺構であるとする、オンボ A 遺跡やオンボ B 遺跡とは異なり、本遺跡は中世の畑などの生産領域であったと考えられる。今後の検討を通じ、遺跡の性格を明らかにしたい。

(鵜飼雅弘)



調査区位置(S=1:1,000)



主要遺構図 (S=1:500)



調査区全景 (西から)



石列 (0007SW)



焼土? (0067SL)



小皿出土状況





0072SD



0099SD・0155SD



0104SD



0166SD・0117SD



陥穴 (032SK)



0180SP 半裁



調査区西堆積状況



調査区東堆積状況